
■ 1.

利用児および家族の生活に対する意向

1-1. 子ども・家族の意向 ・児童精神科医(管理責任者)による初期面談・診察を実施し、子どもの発達段階や特性、保護者のご希望・悩みを詳細に把握します。 ・保護者からは、子育ての悩み・困りごと(感情コントロールや言語発達の遅れ、偏食や睡眠習慣など)をヒアリングし、生活全般を見据えた支援を検討します。 ・子ども自身の好み(興味のある遊び・好きなキャラクター等)や苦手な刺激(大きい音、人混みなど)を把握し、安心して過ごせる環境を整えます。

1-2. アセスメント体制 ・5領域(健康・生活／運動・感覚／認知・行動／言語・コミュニケーション／人間関係・社会性)を網羅した専門的アセスメントを行います。 ↳児童精神科医による発達面の医学的診断・評価、臨床心理士による発達検査(心理検査)などを活用。 ・必要に応じて作業療法士、言語聴覚士による個別評価(感覚統合評価、言語評価)を実施し、具体的な課題とニーズを洗い出します。

■ 2.

総合的な支援の方針

・支援期間を1年(半年ごとのモニタリングあり)を目途に設定し、子ども・家族・専門家が一丸となって目標達成を目指します。 ・主な方針 1) 医療的根拠に基づく発達支援 児童精神科医の監修を受け、エビデンスに基づいた早期療育を行い、子どもの脳や身体の成長をサポート。 2) 家庭・保育所との連動 保育園や幼稚園との情報共有と協力を行い、園での様子や家庭での育児方針を含め、生活全体をつなぎます。 3) インクルージョンを見据えた社会性支援 未就学の段階から地域や集団に溶け込む力を育むため、多様な遊びや交流機会を設けます。 4) PDCA サイクルで柔軟に支援を見直し 半年ごとの個別支援計画の見直しに加え、必要に応じて随時調整。

■ 3.

長期目標(1年程度)

1. 基本的な生活習慣の獲得と安定 ↳ 睡眠・食事・排泄リズムが安定し、家族も含めたストレス軽減を図る ↳ 子どもが自発的に身の回りのことをする意欲を持つ

2. 発達段階に応じた言語・コミュニケーションの向上 ー 言語理解や発語が遅れている場合は、専門的な訓練を通して表出力を高める ー 非言語手段（ジェスチャー、絵カード、PECS など）も組み合わせて意思疎通が可能になる
3. 社会性・情緒面の安定 ー 遊びや他児との交流で喜びを感じ、衝動的な行動や不安感が軽減される ー 保育所・幼稚園・地域の子育てサークルなど、集団場面でも安心して過ごせる
4. 保護者が子どもの特性を理解し、適切に対応できる ー 子どもの行動背景や心理状態の理解を深め、親子のストレスを軽減 ー 自宅でも使える具体的なアプローチ（声かけ、視覚支援など）を習得

■ 4.

短期目標(6か月程度)

1. 生活習慣の見直し ー 就寝・起床時間の調整、偏食改善に向けた取り組み ー 親子で取り組める視覚支援ツール(おしたくボード等)の活用
2. コミュニケーションの第一歩 ー 絵カードや身振りなどを使い、簡単な要求表出や意思表示ができる ー 保護者・支援者が子どもの言語発達を促すための声かけ方法を学ぶ
3. 情緒安定と集団活動への慣れ ー 感情高揚時のクールダウン方法(呼吸法、感覚刺激、静かなスペースなど)を習得 ー 小集団での遊びに慣れ、簡単なルールや順番を少しずつ理解
4. 保護者支援の導入 ー ペアレントトレーニングを月1回ペースで導入し、子育てのポイントを共有 ー 保護者同士の交流会や相談窓口を整備し、不安・悩みを共有できる場を提供

■ 5-1.

本人支援(5領域との関連性)

▼ 健康・生活・目標: 子どもが落ち着いた生活リズムを確立し、食事・睡眠・排泄など基本的習慣を身につける・支援内容: (健康/生活) 視覚的スケジュールや絵本を活用して、1日の流れを子どもに分かりやすく提示 (運動/感覚) 着脱や排泄動作の練習時に運動発達段階を考慮し、必要なサポートを適宜行う (認知/行動) 「次はトイレ」「次はおやつ」などを事前に伝え、不安や混乱を減らす (言語/コミュニケーション) 「ごはん」「おふろ」「ねんね」など、生活に密着した単語を積極的に教示 (人間関係/社会性) 健康状態をスタッフと共有し、子どもが安心感を得られるよう声かけを工夫

▼ 運動・感覚 ・目標: 感覚遊びや運動遊びを通じて、身体面・感覚面の発達を促し、情緒の安定を図る ・支援内容: (健康/生活) 活動後の水分補給やクールダウンを定着させ、体調を守る (運動/感覚) バランスボール・トランポリン・スクーターボードなど多様な遊具を活用し、体幹や前庭覚を育む (認知/行動) 運動前にゴールを提示し、達成感や集中力を引き出す (言語/コミュニケーション) 運動中の動作や道具の名称を言葉に出し、語彙獲得を促進 (人間関係/社会性) 小集団で運動を行い、順番待ちや交互操作を体感する

▼ 認知・行動 ・目標: 子どもが周囲の状況を理解し、自分の行動をコントロールできるようになる ・支援内容: (健康/生活) 1日の中で落ち着いて取り組める環境を整備し、安心して過ごせるよう工夫 (運動/感覚) 感覚負荷をかけすぎない配慮を行い、集中力を維持 (認知/行動) スモールステップの課題を設定し、成功体験を積み重ねる(パズル、色分け、マッチングなど) (言語/コミュニケーション) 短い指示文や絵カードで指示を分かりやすく伝え、自分で動けるよう促す (人間関係/社会性) グループゲームで「待つ」「順番」「交代」を学び、他者を意識する

▼ 言語・コミュニケーション ・目標: 意思表示や要求表出がスムーズにできるようになり、やり取りに喜びを感じる ・支援内容: (健康/生活) 食事やおやつの場面など、実生活に即した語彙・コミュニケーションを繰り返し練習 (運動/感覚) 動きや遊びを言葉と結びつけ、「ジャンプ」「まわる」など動詞を覚える (認知/行動) 絵カードや PECS を導入し、状況に応じて子どもが自ら意思を伝えられるよう誘導 (言語/コミュニケーション) 絵本の読み聞かせやリズム遊びを積極的に取り入れ、聴く力・発する力を刺激 (人間関係/社会性) スタッフや他の子どもとのやり取りをサポートし、「ちょうだい」「どうぞ」などやり取りができるように

▼ 人間関係・社会性 ・目標: 他の子どもや大人と関わることへの安心感を育み、集団活動への適応力を高める ・支援内容: (健康/生活) 安全基地(特定のスタッフや安心できる場所)を確保し、不安時に戻れるようにする (運動/感覚) 他児と並行して活動する中で、自然に相手を意識できるように (認知/行動) 集団遊びのルールを単純化し、理解しやすい工夫を施す (言語/コミュニケーション) 「おはよう」「バイバイ」などのあいさつ練習を通じて関わりのきっかけを作る (人間関係/社会性) ごっこ遊びや模倣遊びを取り入れ、他児との協調性や社会性を伸ばす

1. 保護者の理解促進 ・児童精神科医による子どもの特性説明や、定期的なペアレントトレーニング(子どもへの対応方法、ストレスマネジメントなど)を提供 ・臨床心理士や言語聴覚士が作成した個別の家庭向けアドバイス(声かけ例、感覚過敏対策)を提示
2. レスパイト・就労支援 ・保護者のリフレッシュ時間確保のため、短時間の預かりなども柔軟に検討 ・就労希望のある保護者には地域の保育園・障害福祉事業所などの活用方法を案内
3. 保護者交流や情報共有 ・保護者向けセミナー(発達障害の基礎知識、しつけのポイントなど)を定期開催 ・保護者同士が悩みを共有し合える「ピアの場」を月1回程度設置し、孤立防止を図る

■ 5-3.

移行支援

1. 保育園・幼稚園への連携 ・進級や新しい園への移動を想定し、園との情報共有や見学の調整、受け入れ側の準備をサポート ・小学校入学を見据えた学習準備(文字や数への興味づけ)を必要に応じて取り入れる
2. 地域とのつながり ・地域の未就学児向けサークル(親子リトミック、運動教室など)への参加を促し、社会性を育む

■ 5-4.

地域支援・地域連携

・保健センター、発達障害者支援センター、医療機関(小児科、歯科など)との連携を密にし、切れ目ないサポートを実現 ・公的サービス(障害児通園施設、医療的ケア児支援センター等)や地域の遊び場の情報を保護者に提供

■ 6.

支援目標・支援内容

・到達目標(6か月～1年後):
- 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、保育所や家庭で安定して過ごせる
- 親子のコミュニケーションが円滑になり、子育てに対する保護者の不安が軽減

・アセスメントの結果:
- 感覚過敏や言語遅滞など、専門的支援が必要な場合は早期段階で適切に介入
- 家庭環境でのストレスや課題(育児負担など)を把握し、レスパイトも含めて提案

支援内容(事業所の工夫・配慮)

1. 本人支援(5 領域連携)
 - 毎日の視覚支援: スケジュールボードや見通しカードを活用し、不安低減
 - 感覚統合プログラム: OT が中心となり、子どもの感覚特性に合わせた遊びを計画
 - 言語発達プログラム: ST が参加し、発語促進・語彙獲得のための短時間セッション
 - 集団遊び: 模倣・ごっこ遊びを通じた社会性支援
2. 家族支援
 - 家庭での声かけやご褒美シールなど、具体的ツールを提供
 - 保護者面談: 月 1 回の定期面談と、必要に応じた電話相談を実施
3. 移行支援
 - 保育園との情報交換会: 3 か月に 1 回程度
 - 受け入れ先との支援計画共有や、見学同行など
4. 地域支援・地域連携
 - 地域子育てサロンや保健センターとの連携
 - 必要な医療機関の紹介や受診のサポート

担当者・提供機関

- ・主たる担当 - 児童発達支援管理責任者: 児童精神科医(または管理の専門スタッフ) - 臨床心理士: 発達検査・心理面の評価と支援 - 作業療法士(OT): 感覚統合や運動面の評価・プログラム作成 - 言語聴覚士(ST): 言語発達アセスメントと訓練 - 保育士/看護師: 日常の保育・ケアと保護者相談対応
- ・連携機関 - ○○保育園、△△幼稚園 - 地域の発達障害者支援センター、保健センター - 必要に応じて小児科、耳鼻科、歯科など医療機関

留意事項欄

- ・加算情報 - 家族支援加算: 月 1 回以上の保護者支援実施 - 関係機関連携加算: 保育所・医療機関など連携が継続的に必要

・個別支援計画との関連性 - 本計画は児童精神科医の診察や専門的支援実施加算の個別支援計画と連動

■ 10.

優先順位

1. 規則正しい生活リズムの確立(健康・生活)
2. 言語・コミュニケーション能力の向上
3. 感覚統合・運動面の発達支援
4. 社会性・情緒面の安定
5. 家族支援(ペアレントトレーニング・レスパイトなど)

【作成全般にかかる留意点】

◆ 子どもの意思尊重と最善の利益の優先 子どもの年齢や発達に合わせ、本人の興味・好みを大切に。

◆ アセスメントに基づいた支援 5領域＋医療的視点による包括的アセスメントを実施し、個別性を尊重。

◆ PDCA サイクルによる継続的な評価・改善 半年ごとに支援計画を見直し、子どもの成長に合わせて柔軟に更新。

【METKIDS 社のオリジナリティ】

1. 児童精神科医による医学的バックアップ ・日本でも数少ない児童精神科医が、直接的に未就学児を診察・評価し、療育方針を監修
2. 多職種チームアプローチ ・臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士が定期的にカンファレンスを行い、連携した支援を実施
3. 愛着理論重視の保育・療育 ・安心感を育むために、少人数制や担当制を導入し、子どもの自己肯定感を伸ばす
4. 地域貢献と無償巡回支援 ・地域保育園への巡回や子育て講座を無料で実施し、保育士や親への専門的アドバイスを行う

以上の方針に基づき、児童精神科医と連携となり、未就学児の発達を支える包括的な療育を提供します。保護者や地域との連携を強化しながら、子どもの個性を最大限に伸ばし、安心して成長できる環境を整えていきます。